

## 日本の医療は世界トップレベル？

院長 林 田 良 三

日本人の平均寿命は年々伸び続けており、厚生労働省の発表によると、2017年には男性81歳、女性87歳と過去最高を更新しました。国別の順位は男性が香港、スイスに次ぐ3位で女性は香港に次いで2位でした。日本人の平均寿命は今後も伸び続けると予測されており、人生100年時代が現実味を帯びてきました。

日本人がこれほど長生きになったのには複数の要因が考えられますが、重要な要因の一つが世界に誇れる日本の医療制度です。2015年、THE LANCET（ランセット）という世界的にも権威あるイギリスの医学雑誌に医療の質、国別ランキングが掲載されました。医療の質と一口で言っても様々な切り口があると思います。ここでは医療機関に容易に受診できて、質の高い医療を受けていれば亡くならずすんだであろう患者さんの比率

（回避可能死亡率）を32の疾病で指数化して国別に比較したものです。これによりますと日本は195か国中11位でした。（表1）日本より上位にある国は日本より人口規模がずっと小さな国が多く、日本の指数との差もわずかです。人口規模や社会情勢が日本と類似したG7（先進7カ国）のなかでは日本が1位でした。日本の医療は世界トップレベルと評価されています。

医療現場で行われる医療そのものは現在では国際的にもほぼ標準化されており、先進国であればほぼ同等です。日本がすぐれているのは国民皆保険制度に下支えされた医療機関へのアクセスの良さです。国民のだれもが低い医療費負担で質の高い医療を容易に受けられる医療制度を日本は確立してきました。

そしてこのアクセスの良さを可能にしているもう一つの要因が世界一多い病院数と充実した医療設備です。ちなみに人口あたりのCT-scan、MRIの普及台数は世界一です。しかし、そこで働く医師数は2015年の調査ではOECD（経済協力開発機

構）加盟国35か国中30位、看護師数は12位で決して多くありません。世界一多い病院、充実した医療設備の運営は少数の医師、看護師などの医療スタッフの時間外労働を厭わない献身的働きによって支えられてきました。

しかし、このような日本の医療に今、危機が迫っています。平成30年6月に成立した「働き方改革関連法」のもと、医療現場にも厳格な時間外労働の制限がかかってきました。

医療者のライフワークバランス、健康保持といった観点からはとてもいいことです。ただ、医師の地域や診療科による偏在や看護師不足への対策がないまま働き方改革だけが先行してしまうと地域医療は維持できなくなってしまいます。世界に類をみない少子高齢化が進む今、医療は大きな曲がり角にきています。世界トップレベルの医療を持続可能にするために様々な医療改革が進んでいます。一人でも多くの方にこの状況を理解していただき、関心をもっていただけることを願っております。

（表1）

順位	国名	人口 (WHO2015年)	HQA指数
1	アンドラ	7万人	95
2	アイスランド	33万人	94
3	スイス	830万人	92
4	スウェーデン	978万人	90
5	ノルウェイ	521万人	90
6	オーストラリア	2,397万人	90
7	フィンランド	550万人	90
8	スペイン	4,612万人	90
9	オランダ	1,693万人	90
10	ルクセンブルグ	57万人	89
11	日本	1億2,657万人	89
12	イタリア	5,980万人	89
13	アイルランド	469万人	88
14	オーストリア	855万人	88
15	フランス	6,440万人	88

HAQ指数：医療の質、アクセス指数「防げるはずの死」をどれだけ防いでいるかを32疾病を対象に国別に指数化195か国中上位20か国を下記論文より引用し表を作成

引用：THE LANCET VOLUME390, ISSUE10091, P231-266, JULY15, 2017

